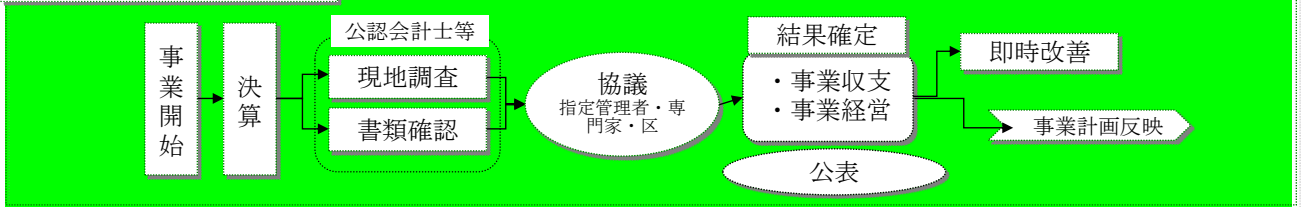


平成30年度 千代田区立図書館 経営・財務モニタリング

1 経営・財務モニタリングの概要

- 対象：千代田区立図書館(平成29年度実績)
- 方法：指定管理者制度第三者評価を行っている事業者(経営創研株式会社)による財務状況、現地聞き取り調査等による経営状況の分析
- 視点：財務状況、経営状況、課題及び改善点

2 モニタリングの流れ



3 経営・財務状況

(1)施設利用状況(平成29年度)

a 図書館業務		29年度
来館者数		1,796,906 人
資料貸出数		886,052 点
資料数		580,185 点
累計登録者数		84,688 人
レファレンス数		15,908 件
データベース利用		6,981 件
広報活動	パブリシティ活動	229 件
	視察対応	575 件
コンシェルジュ	館内案内	40,216 件

b 貸室		29年度
大ホール利用率		60.47 %
小ホール利用率		66.04 %
会議室A		58.35 %
会議室B		68.15 %
特別研究席		70.18 人

c レストラン・ショップ&カフェ		29年度
来客数		113,524 人
売上		85,361,214 円

(2)施設の収支状況(平成29年度)

収 入		29年度
指定管理料		865,372,627 円
研修室・会議室・ホール利用料		32,955,950 円
レストラン・ショップ&カフェ販売料		85,361,214 円
日比谷カレッジ受講料		27,957,920 円
特別展示室入場料		2,234,200 円
特別研究席使用料・コピー代等		7,499,300 円
計 (A)		1,021,381,211 円

支 出		29年度
人件費		520,601,901 円
資料費		79,567,739 円
システム運用費		30,847,662 円
広報費		28,132,412 円
一般運営費		34,652,860 円
維持管理費		152,535,795 円
一般管理費		20,000,000 円
事業費		154,551,376 円
計 (B)		1,020,889,745 円

収支 (A)-(B)=	491,466 円
-------------	-----------

4 提言・アドバイス(事業の改善策)

(1) 運營業務

- ・6社による5館一体運営となり、全体を統括するゼネラルマネジャーの設置は、窓口の一本化や全体の調整という面で大きな成果を上げています。企画力や図書館運営スキル等、6社其々の優位な部分を5館に横断的に提供することで、更なる改善の質の向上に繋げることができると見られます。
- ・指定管理者制度をいち早く導入し、コンシェルジュの導入、古書店との連携、ビジネスパーソンに特化した第2のオフィス機能等、図書館の既存概念を打破し、日本の図書館運営に一石を投じて来た運営が定着しました。ただ、これまでの取組みを継続維持している傾向が強いように感じられます。次の時代を見据え、長期的視点から再確認し、新たなチャレンジや継続事業や運営の再検証も必要でしょう。
- ・モーニングセミナーは、継続開催してきた成果として、受講生が講師を務める程、学びの継続の価値を高めています。日比谷カレッジとともに学びを通じたコミュニティの構築ができていく点を広くアピールすると、千代田区立図書館の運営の価値や集い学ぶ意義を広く周知できるでしょう。
- ・維持管理は、修繕履歴を記載することにより、中長期の改善に役立っています。清掃は、「美化推進セルフチェック」等、業務日誌を工夫し現場職員のスキル向上に日々役立っています。

(2) 財務状況

- ・6社で構成されるコンソーシアムという寄合所帯の中で、代表企業のリーダーシップの下、PDCAサイクルを回し、良好な収支の管理が行われています。
- ・収支状況については収入を増加する取り組みに注力する一方、支出面は収入の増加額の範囲内に抑えて、初年度の29年度から黒字を確保し、30年度も予算並みで推移しており、良好な状況にあります。
- ・代表企業の本社指定管理施設所管部門と本社経理部門が施設と一体となって収支関連情報を共有し、サポートしていることが貢献しているものと思われます。

(3) 利用者サービスの向上

- ・神田古書店や出版社等と連携事業を実施しています。また近隣の美術館や飲食店の情報も収集しファイリングし、コンシェルジュが利用者に案内しています。地域連携は、質・量共に精力的に実施され他施設の参考となります。
- ・職員の高司書率、専門研修も充実し、レファレンスやテーマ展示は、高いレベルでのサービスを提供しています。
- ・各館独自の広報紙に加え「コンシェルジュの見聞録」を作成したり、ちよびたブログやフェイスブックとタイムリーに情報を発信しています。
- ・図書館の利用者は全国的にも右肩下りの傾向にあります。企業向けビジネス書案内のアウトリーチ活動も既に展開していますが、来館したことがない方に館の魅力を伝え、新たな利用者に繋げる事業や取組みが課題です。